知的障がい児・者の職業態度に関する調査研究

―「職業態度支援チェックリスト」の作成と職業態度の獲得状況についてー

○小笠原 拓¹⁾ 岡本 孝伸¹⁾ 伊藤 浩²⁾ 菅野 敦³⁾ 1)株式会社ドコモ・プラスハーティ 2) 社会福祉法人幸会 3) 東京学芸大学

KEY WORDS: 知的障がい児・者, 職業態度, チェックリスト

döcomo

(主体的)

目的

作業・就労領域の支援

「はたらく」ことを通じて、 社会的な自立を目指す。

=職業・社会生活に必要な 能力を高め、実践的な態度 を育てる。

「職業態度」の具体的な 内容を整理する必要性。

職業態度の6領域(意野,2015)

他者に協力する、 他者と意見を交わす 協調・協力 同じ目標・目的に向かって力を合わせる (例)

効率性、臨機応変、 柔軟性 状況に応じた適切な判断・対応をする (例) 自己改善力

集中力、継続力、 正確性、安定性 責任性 任務や義務を果たそうとする

積極性 自らの意思・判断をもって取り組む (例) 自主性、主体性 ルール、マナー 報告・連絡・相談 受容性 規律や要求を聞き入れ、従う

(例) 相手に向かう・応じる 勤労の目的・尊さ 感受性 外界からの働きかけを受け入れる

基礎・基本的な水準から、職業・社会生活を見据えた水準まで難易度によって階層構造を形成。 ⇒下位階層での態度獲得をもとに、上位階層の態度を段階的に獲得していくと考えられる。

污張



職業態度支援チェックリスト

- 6 領域 43 項目
- 対象者の職業態度の獲得状況を 1~5点に点数化
- ・特別支援学校高等部(2校)
- ・就労継続 B 型事業所(6か所)
- ・就労移行支援事業所(3か所)
- ・通勤寮(1か所)
- ・企業 (2社)

在籍する知的障がい児・者 234 名 を対象に調査実施



チェックリストの妥当性の分析

1. 各項目・領域の平均得点を算出・比較

自発性、自立性、

- ⇒「職業態度の6領域」の階層性を示しているか
- 2. 項目間の相関係数を算出
- ⇒同様の内容を示している項目はないか
- 3. 重み付けK係数(kappa coefficient)を算出 ⇒評価者によって回答にばらつきが出ないか

結果と考察







- 1. 「積極性」「責任性」の得 点が高く、階層性を示す項目 内容になっていない
- 2. 相関係数が高く、同様の 内容を示す項目がある
- 3. K 関数が高く、項目内容 に関して評価者間で概ね共 通の理解を得られた